

はじめに

看護学は、高度な医療の一翼を担うとともに、人々の人生における生老病死といった重要な出来事に寄り添い、健康で幸福な生活の実現を目指す学問です。看護職者に求められる資質は、多様な人々の看護に必要な知識と倫理観であり、必要とされる能力は対象となる個人・家族を理解し、アセスメント結果に基づく根拠あるケアを提供し、その実践内容を適切に評価することです。特に、看護職者によって提供される看護技術は、安全・正確・安楽でなければなりません。

学生の皆さんが、母性看護学とその実践を学ぶ看護学実習に臨むにあたり、自身の看護技術が安全で正確であり、対象者にとって安楽で安心できるものであるか心配されることは理解できます。だからこそ、学内で繰り返し行われる練習、イメージトレーニング、ロールプレイ演習がとても重要となります。

母性看護学では、妊婦、産婦、褥婦、新生児、家族がケアの対象者となります。それぞれ発達段階、健康課題、心理的状态、社会的活動、ADLが多様ですので、それに応じて提供すべき看護技術の内容、注意・配慮する点、必要物品は異なります。そこで、本書では、母性看護学に必要な技術について、写真やイラストを通してより具体的に学習できるよう工夫しています。各技術については、実施する目的・準備・実施方法・実施後の評価のポイントを示しています。また、技術の根拠となるような知識、あるいは技術を使う上でのこつなどを「plus α 」や「留意点」として付記しています。加えて、その技術がなぜ必要なのかについて理解を深めるために、ナーシング・グラフィカ母性看護学②『母性看護の実践』の該当箇所も提示しています。今回の改訂では、「AR動画」や巻頭図解、巻末資料が充実しましたので、これらを活用し、母性看護学に必要な技術をより確実なものにしていきたいと思えます。

最後に、本書で示している看護技術は、必ず記載どおりに実施しなければならないというものではありません。妊産褥婦、新生児、家族のニーズや状況に合わせて修正・工夫することが必要です。その修正と工夫が、未来の母性看護学を形作ることとなるでしょう。本書を通して、学生の皆さんが母性看護学の知識と技術を統合し、母性看護学実習へ向けてスムーズに準備ができ、さらには母性看護学に対してより深い関心をもっていたいただければ、編者として大きな喜びです。

荒木奈緒